

ZAR は護民官提言の影響で上値が重い

- ◆豪州銀行の格下げは想定内のため影響は軽微
- ◆来週は豪州の経済指標がないも中国の指標に要警戒
- ◆ZAR は護民官の提言の影響で売られやすい

予想レンジ

豪ドル円 81.40-85.70 円

南ア・ランド円 8.30-8.80 円

6月26日週の展望

豪ドル円は底堅く推移しそうだ。19日に格付け会社のムーディーズが豪州の主要4銀行を格下げした。銀行ローンの借り手となっている労働者の賃金が上昇しておらず、ローンの焦げ付きを懸念する声が以前からあることから、格下げに驚きはない。その一方、先週の豪準備銀行(RBA)金融政策決定理事会議事録は、豪州経済は堅調との見方で、経済成長が3%へ加速するという予想は変わらなかった。今週は調整の売りで豪ドルの上値は重かったものの、先行きは決して暗くはない。

来週は月末のため豪州から経済指標の発表がない。しかし、29日にデベル RBA 総裁補佐の講演があり、30日には中国国家统计局の6月製造業 PMI と非製造業 PMI が発表される。豪州の経済指標は最近好調であるため、中国の指標だけで豪ドルのトレンドが変わるかどうかが微妙だが、警戒は必要である。

原油価格の上値が非常に重いため、引き続き原油主導で商品価格が全体的に下がり、豪ドルの上値を抑える可能性がある。米国ではロシアゲート疑惑でロシアとの関係が緊張し、リスクが高まっている。自動車大手フォードが中国へ工場を移転すると発表しており、産業界はトランプ政権に期待できないと反旗を翻している。トランプ大統領の求心力が一層低下する可能性があり、懸念される。

南ア・ランド(ZAR)は再び国内が混迷しているため上値は限定的だろう。政府機関の不正を監視する護民官が、憲法で定める中央銀行の使命を通貨と物価の安定から経済成長へ変更し、「通貨価値の保護」という使命を憲法から削除すべきと訴えている。これを受けて、ギガバ南ア財務相は南ア準備銀行(SARB)の独立性を主張し反論したが、ZAR 売りの流れは変わっていない。このような前代未聞の要求が出てくること自体がハイリスク・ハイリターン通貨特有である。市場はいずれこの話題に鈍感になり、再び魅力的な高金利通貨として ZAR を買う動きに回帰すると思われるが、このような不透明な話題が解消されるまで、通常、相当長い期間が必要である。最低、数週間はかかると思われるため、来週は ZAR 円の上値は限定的だろう。なお来週は29日に5月の生産者物価指数、30日に貿易収支が発表される。

6月19日週の回顧

豪ドルは対円、対ドル、対 NZ ドルすべてに対して下落した。ムーディーズが豪主要4銀行の格付けを「AA3」から「AA2」に格下げしたことを受け一時豪ドルは売られたが、その後格下げの下落分を取り戻した。豪ドルの下げは豪州の内部要因よりも、米長期債利回りの上昇でドル買いになり、原油主導で商品価格が下落するという外部要因が大きかった。1-3月期住宅価格指数は市場予想通りの2.2%だった。ZAR は対円、対ドルともに弱含んだ。19日に南アの反汚職担当の護民官が、SARB の使命を通貨・物価の安定から経済成長に変更するべきと提言したことから、ZAR が大幅に売られた。南アの1-3月期経常収支は対国内総生産(GDP)比で市場予想の-2.3%に対し-2.1%、5月の消費者物価指数は市場予想の+5.3%に対し+5.4%だった。(了)